

函館のシゴトシク北海道

就労支援活動軌道に

障害者やさまざまな理由で就労が困難な人たちの就労支援を目的に2013年12月、函館市湯川町3に障害福祉サービス事業所を開設したNPO法人、シゴトシク北海道(清野佑亮理事長)の活動が軌道に乗りつつある。ほぼ定員に近い障害者の利用があり、就労が困難な人たちの登録数と受け入れ企業の登録数も順調に推移している。(小林健太郎)

シゴトシク北海道は、札幌の福祉専門学校とともに学んだ函館や旭川出身の20代の若者3人が13年4月に設立した。3人は卒業後に札幌や函館の福祉施設に勤務し、「障害者の自立には就労支援が不可欠」だと感じたという。

また、例えば母子家庭のため長時間働くことのできない母親や、病気のため定期的な通院が必要な人など、障害者以外にも就労が困難で悩んでいる人も多くいる。3人のひとり専務理事の下斗米貴行さん(30)は「障害者手帳がな

くても、通常の就労が難しい『社会的弱者』がいる。こうした就業困難者を支援することも必要だと感じた」といい、誰もが就労支援サービスを受けられる事業所にしようとも考えた。

障害者には、市内企業など

「働く喜び提供したい」

受け入れ企業も登録増

から請け負った自動車部品の洗浄や米の袋詰めなどの軽作業を就労訓練としてやってもらい、労賃を払う。1日の利用定員は20人だが、事業所開設以来「定員は8割が埋まる状態が続いている」(下斗米さん)という。1月下旬には10人ほどが水産加工会社から受注したホタテ貝のウロ取りに精を出していた。法定の訓練期間である2年以内に障害者たちの就職先を見つけて送り出さねばならず、それが今後の大きな課題だ。

このサービスを使って市内のマンション敷地内の清掃の仕事に就いた市内の40代男性は「働くことで生活リズムが安定し、働きがいもある。仲間と働けることが何より楽しい」と話す。シゴトシク北海道は今後、受け入れ企業を30社程度に増やしたい考えだ。

下斗米さんは「人々へ働く喜びを提供する支援をしていきたい。障害者や就業が困難な人たちが集う場でありたい」と話す。シゴトシク北海道は011-388-3667、878。



シゴトシクの事業所でホタテのウロ取り作業をする人たち